

平成28年度(第26回)一関文化賞表彰式典挙行 文化・芸術の振興、人づくりの活動を顕彰

NPO法人一関文化会議所 理事長 内田 正好

式 辞



式辞を述べる内田理事長

皆様本日は菊薫る佳き日、平成28年度第26回「一関文化賞」表彰式にご出席下さり誠にありがとうございます。

御来賓として、一関市長勝部修様をはじめたくさんの方々に御臨席を賜わり式典を挙げてきま

すことを心より感謝申し上げます。

また、私共特定非営利活動法人一関文化会議所の事業や活動につきまして、皆様から温かい御理解や御支援を戴いていることも、改めて御礼申し上げます。次第でございます。

さて、私共一関文化会議所では、創立の目的に「ふるさと創生」「文化の創造」を掲げ、「潤いのある文化的な魅力あるまちづくり」を目指しながら各種の事業を展開しております。その中で顕彰事業としての「一関文化賞」は、文化・芸術の振興、活力あるまちづくりや人づくり等の分野で、地道にそして顕著な研究や活動を積み重ねられた方々を顕彰させて戴いております。

今年度の「一関文化賞」は、生活文化部門「室根町第12区自治会」様、芸術文化部門「いわい美術振興協会」様、そして人づくり部門では「齋藤初美」様のお三方でございます。

詳しい御活躍ぶりや御功績の素晴らしさにつきましては、後ほど担当の者からご紹介申し上げます。

本日「一関文化賞」を受賞された方々は、今後さらに研究活動や発表活動に取り組み、当一関地方の歴史と文化の創造や継承発展のために、益々御活躍されることを御祈念申し上げます。式辞といたします。

本日は誠にありがとうございます。

平成28年11月8日



祝辞を述べる田代副市長



記念品の授与

第26回一関文化賞

- ・生活文化部門 室根町第12区自治会
- ・芸術文化部門 いわい美術振興協会の3者を表彰
- ・人づくり部門 齋藤初美氏

奨励委員会委員長 只野弘三

第26回（平成28年度）一関文化賞の表彰式は、11月8日、ホテルサンルート一関を会場に執り行い、当地域において文化・芸術の振興、活力あるまちづくりや人づくり等の分野で貢献された3者を表彰し、その功績を讃えました。

生活文化部門で、自治会員の一体となった自然環境の保全への取り組みが社会に評価されている室根町第12区自治会。芸術文化部門で、美術を通じて子供の豊かな情緒形成や市民の芸術振興に貢献されているいわい美術振興協会。人づくり部門で、多数の著書を発刊する執筆活動や村づくり活動等により農村文化の保全・伝承・振興に尽力されている齋藤初美氏を表彰しました。

式では、内田正好一関文化会議所理事長の式辞のあと、受賞者に表彰状とトロフィーが手渡され、一関市長等ご来賓から祝辞を頂き、受賞を讃えました。また、受賞者の方からは感謝と今後のさらなる活動への決意の言葉を頂きました。

今年度の受賞者の方をご紹介いたします。



左から、室根町第12区自治会三浦会長、
いわい美術振興協会及川理事長、齋藤初美氏

【受賞者の紹介】

一関文化賞「生活文化部門」

室根町第12区自治会

室根町第12区自治会は、従来の組織を七部編成に再構築し、どの部の行事においても、子どもからお年寄りまで参加出来る自治会行事を企画・提案し、楽しんで活動している。ここに至るまでは当然平坦な道のりではなく、約20年前、地区の若者の「自治会は毎年同じことばかりで何も変わらない」の一言から、地域の活性化・世代間交流等をはかることを目指し、水車づくりを通しての「水車のある集落づくり」をスタートさせ、

- (1) 広葉樹の植樹による水源涵養の森づくり
- (2) 水車小屋の復元
- (3) 環境保全型農業の推進

を活動の3本柱に、自然環境の保全に重点を置く活動と運動を展開している。

また、平成元年、宮城県気仙沼市唐桑町にカキ・ホタテ養殖漁師たちの“漁民が山に木を植える”広葉樹の植樹活動がきっかけで始まった「森は海の恋人植樹祭」（当初参加者約100人）に賛同した同自治会は、それに連携した活動として平成6年、矢越山に広葉樹の「ひこばえの森」を整備した。以来、今日まで四半世紀に渡る継続的植樹活動は、

豊かな海を育む森づくりの実践となり、東日本大震災時にも、半ば挫折し苦悩する養殖漁師たちに、屈することなく前進する希望の力となり、今では1,500人余の参加をみる森づくりの先駆的な住民参加型の全国的にも有名な市民活動として高く評価されております。

これらの活動は自治会活動の模範となるものであり、更には自然環境の保全に大いに寄与し、その功績は大なるものがあります。

一関文化賞「芸術文化部門」

いわい美術振興協会

いわい美術振興協会は、平成5年1月芸術活動に熱意ある仲間達により、美術活動を盛んにして、潤いと安らぎのある文化の香る地域にしたいという理念のもと創立されました。西磐井・東磐井・旧一関市を“いわい”の名前で統一し、「地域が一体になり美術を“振興”していく」という結成の趣旨に沿った各会員の地道で弛まぬ美術への研鑽とその活動は、地域の方々に共感を与え、「いわい」に美術の輪を広げ、会員を増やしてきました。

創立期から著名な版画家・池田満寿夫氏や県立美術館長等の美術講座、市民参加の講演会を重点的に開催し、会員、さらには市民相互の啓発、交流、研修に励んできました。また、東日本大震災の沿岸被災地小学校との支援交流、「子ども文化祭」での継続的支援など幅広い活動は、情緒豊か

な次世代を担う子どもの育成にも寄与しています。

また、会報「コンテ」は、創立以来23年間で36号に及んでおり、著名人による寄稿・会員の提言等を内容として、会員・公的機関・一般市民の方々へ配布するなど、美術活動の理解・啓発となり、内容面からも高い評価を得ています。

発足当時から四半世紀にわたり継続開催している市民参加の「美術研修会」や「いわい美術展」「小品展」「デッサン展」では、多くの市民の関心と期待が高まり、好評を博しており、一関地方の美術的環境が徐々に醸成され、市民の文化的・創造的活動に大いに寄与し、その功績は大なるものがあります。

一関文化賞「人づくり部門」

齋藤初美氏

齋藤初美氏は、昭和13年、農家の長男として萩荘の地に生まれ、高校卒業後、県立農業試験場の研究生として1年間農業の有様のノウハウを学び、19歳で家業を継いだ。以

来、稲作を主体に養豚・果樹等を営み、自然災害と対峙し、時には因習文化に苦悩し、その生き様をさらしつつ、農民として如何に生きるべきか、人間として何を見据えて生きるべきかを模索し続けてきた。

30代で始めた執筆活動の根底には、人間本来の生きる姿の基本は農業にあり、その農業・農村の中には人として守っていかなければならない貴重な文化があること、そしてこの農村文化を世の人達に見てもらいたい、「農村の魅力や文化を孫たちの世代に伝えたい」の思いを吐露し、昭和45年「明日をつかむ」の随想出版に始まり、平成9年「かかしの独り言」等、更には平成24年の小説「梟の挽歌」までの6作品に及んでいる。

この間、村づくり活動を展開し、芝居や踊りの企画、慶事の折りには国旗・集落旗の掲揚を率先垂範し、平成22年からは地元有志二人と豆新聞・月間「桑団魂（こだま）」の発行をスタート。更には、活気ある地域を模索しながら、史跡マップ作成、古里の写真展等々、強いリーダーシップを発揮され、精力的に「ふるさと掘り起し」を継続され、伝承することへの使命感に燃えたその諸活動は、地域の活性化はもとより、地域農村文化の継承・発信等、その功績は大なるものがあります。

ふるさと学習院には185名が受講

現地探訪～瑞巖寺・瑞鳳殿等 伊達政宗ゆかりの地を探訪

事業委員会委員長 工藤 武

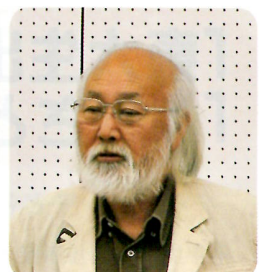
本年度のふるさと学習院は、浄土平泉を築いた藤原氏の滅亡後における磐井地方の中世について多方面から光を当て、講師のお話をいただきました。

初回は、藤原氏以後、戦国時代末期まで磐井地方を治めた葛西氏についてその興亡の契機等を探り、2回目は中世仏教の石碑である板碑からその時代の様相、信仰の一端をひもとき、3回目は磐井地方に残る館跡や城址の調査事例などから中世磐井を概観いたしました。

現地探訪は、磐井地方の中世末期（戦国時代末期）から近世（江戸時代初期）を治めた伊達政宗ゆかりの地を探訪して、磐井の歴史と文化を身近に学んでいただきました。



講演に聴き入る参加者（受講者）



本澤講師



現地探訪

ふるさと学習院

回	開催日	内 容 (テーマ)	講 師	受講者数
1	6月28日	開 講 式 講座「葛西氏の興亡～戦国大名への契機～」	一関市博物館 副館長 小 岩 弘 明 氏	49人
2	7月26日	講座「磐井郡の中世石造物～板碑を中心として～」	東磐史学会 常任理事 畠 山 篤 雄 氏	53人
3	10月26日	講座「城郭の研究史～岩手県内の発掘調査事例から～」 閉 講 式	元平泉郷土館 所長 本 澤 慎 輔 氏	39人
現地探訪	9月28日	「磐井地方の中世は伊達政宗に結果した」 をテーマに政宗ゆかりのスポットを探訪。		44人

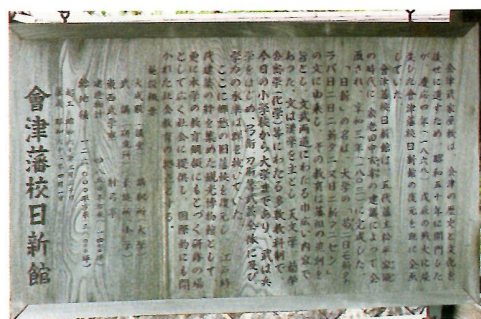
研修・視察事業

「平安の仏像群と白虎隊が生まれた風土の探究」

総務委員会委員長 安東正利

今年度の研修・視察事業は、7月7日に空模様を心配しながらの研修視察地への往路移動でしたが、87名という参加者全員の本事業に対する期待がお天道様に通じ、活動しやすい気候の中で有意義に実施できました。

早朝、一路東北・磐越自動車道に乗り会津若松を目指しました。最初に白虎隊の学び舎で隊士の生き方や精神の醸成に多大な影響を与えた会津藩校日新館を訪問。次に平安時代初期の造像3体の国宝仏のほか多くの国指定重要文化財を所蔵する勝常寺を視察、衆生済土を願い建立安置された如来像等を身近に視て、研修に参加なされた皆さんが忙しい現代生活の中にも「潤い（浄土）」を感じると共に、寺を開基した想いに触れたと思います。



会津藩校（説明板）



参加の方々（1号車）



参加の方々（2号車）

「東大生出前科学授業」・ 「ふるさと子ども探検隊」

子ども委員会委員長 伊藤勝義

本年度は、新規事業として企画した「親子の手づくり木工教室」が大好評の実施となり、参加の親子にもものづくりの楽しさやコミュニケーションを深めて頂きました。

また、「東京大学生CAST」のメンバー8人による「東大生出前科学授業」の実施を8月30・31日に2中学校で企画しましたが、気象統計の開始以来初めてという東北太平洋側からの台風上陸により、止む無く31日の萩中学校のみでの実施となりました。その中でも授業に参加した生徒から「分かりやすく面白かった。」「科学に興味を感じた。」などと好評を得たのは何よりと思えました。

11月5日の大東地域の小学生を対象にした「ふるさと子ども探検隊」でも、参加の児童から地域にある文化遺産の素晴らしさや先人の偉大さに感銘した等の感想を頂き嬉しく感じています。

こうした喜びを今後の事業の企画に活かしていきたいものと思っています。



木工教室 熱中する親子



CASTの実験に見入る生徒

平成28年度NPO法人一関文化会議所子どもスペシャル

『忍たま乱太郎』 キャラクターショー &キッズコンサート

NHKの人気アニメ「忍たま乱太郎」が一関にやってくる!!

おなじみの乱太郎・しんべエ・きり丸と仲間たちが会場の皆さんと楽しく遊びながらショーを進行します。

平成29年3月26日(日) 開演 14時00分
一関文化センター 大ホール

【チケット全席指定】

前売 平成29年1月5日(木)
窓口販売 8:30～、電話予約 9:00～
入場料 前売 子ども(中学生まで) 700円
大人 1,500円
当日 子ども(中学生まで) 1,000円
大人 1,800円

- ・子どもは保護者1名につき1名まで膝上鑑賞無料(着席鑑賞は有料)
- ・チケットは一関文化センター、さとう屋楽器店、小原書店、コンビニなどでお求めいただけます。